

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500230		
法人名	特定非営利活動法人コスモス		
事業所名	グループホーム コスモスハーモニー		
所在地	群馬県太田市西野谷町95-1		
自己評価作成日	令和5年22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和5年6月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは個人個人の尊厳を尊重する事を理念に日々のケアに努めています。建物は全体的にヨーロッパを思わせる雰囲気で作られています。天井は開放感と採光がとれるよう高さを取り、全体に白を基調にし明るい色合いになっています。庭にはバリアフリーで自由に行き来でき、四季折々の花が咲き、季節感を感じることが出来る。また、調理や洗濯など出来る事は可能な限り参加していく事で、能力を発揮して頂くよう努めている。天気の良い日は参加へ出かけたり地域の方々との交流も深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個人個人の尊厳を尊重し、地域住民との交流を図りながら、高齢者の方々が自立した日常生活をより長く営めることをお手伝い致します。」の理念を掲げ、「ひとりの笑顔がみんなの笑顔に」を合言葉に、職員は利用者一人ひとりと十分なコミュニケーションが図れるよう努めている。利用者の生活歴を大切に、これまで行ってきた事、好きな事、得意な事などを活かしてホームでの役割を探し、互いに役立ちながら楽しく生活できるよう支援している。そうした日頃の様子をタイムリーに家族に伝え、特に健康面においては、訪問診療、訪問看護を導入して24時間の体調管理が行われ、家族との連絡を取りながら、必要時には迅速な対応に努めている。職員の協力・連携のもと、利用者の排便習慣などに対して前向きな意見を出し合い、ケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、理念を唱和し確認している。理念をもとに利用者様に対する態度や声掛け、言葉遣いを適切に行い、自立に向け支援している。	朝の理念の唱和により、気を引き締めてケアに取り組んでいる。互いの役に立つことは素晴らしい事と、利用者にも野菜切りや洗濯干し等できることを手伝ってもらっている。また、行事が有ることで生活の区切りとなると考え、今年から夏祭りの再開を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍では以前のような地域活動は行えなかったが、散歩時には地域の方々と挨拶を交わしている。	コロナ禍、ボランティアや理美容の訪問、近隣者との交流を控えてきた。家族との面会のみ時間や方法を制限して行ってきた。今後は、コロナ感染の状況をみながら、地域住民との交流が図れるよう対応していく考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は近隣の小学校の総合学習の来訪があり、ケアマネージャーから認知症について生徒や先生に、症状や、気をつけている事を説明していたが、コロナ禍で中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの影響で開催を見送っているが、コロナ禍前は、事業所の活動状況などの報告と共に、情報交換や意見・要望などを聞いていた。	区長や民生委員、利用者家族、市の担当者で構成し、利用者の生活状況や行事内容の報告等を行ってきたが、コロナ禍にて開催を中止している。法人代表が地域清掃等に参加して、地域住民や区長などとの関わりの継続に努めてきた。	運営推進会議を再会する際には、地域活動でつながりを持ったひとなどにも参加していただくなど、積極的な意見交換につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事があれば、市の担当者へ問い合わせ相談している。また、介護保険の更新申請代行や認定調査に立ち会っている。市役所からくるメールなどでも情報共有している。	コロナウイルスの状況を確認したり、市の催事ごとを問い合わせしたりしている。保険請求や利用者の入居等について分からない事があれば、市に相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準で禁止している身体拘束の具体的な行為について定期的に勉強会を行い、職員の共通理解を図っている。玄関の施錠は夜間のみ行っている。	どんな場合でもどうしたら拘束しないで過ごす事ができるのかを定期的な勉強会を行い、職員で共通認識を図っている。スピーチロックについても検討し、対応の仕方や言葉の選択に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じどうゆう事が虐待にあたるか一人一人の尊厳を尊重する事の意味について話し合いスタッフ一同の共通理解につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、勉強会で学習し、必要性のある方へは相談できるよう準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族が、納得できるまで丁寧に説明し、理解を得ている。疑問があった時はいつでも相談に応じる旨を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話で、ケアプラン作成時に、近況報告を行い、困っている事や希望等を聞くようにつとめている。	利用料の支払いは、口座引き落としや現金支払い等、希望に沿って対応している。外食や外出、帰宅等の要望には、家族の協力を得て実現につなげている。職員は家族の来所を暖かく迎えるよう心がけ、意見、要望が言い易い雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は日頃気づいた事を職員会議で話し合っている。年2回の賞与時には、代表者と管理者が職員と個々に面接し、意見を聞いている。	職員の意見から、退勤時に外灯が点灯するよう時間設定したり、夏祭りの再開にむけて検討したりしている。その他、物品の購入や勤務シフトの希望が出せる体制がある。特に新入職員には、代表者や管理者が個別に意見聴取している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務実績状況を把握し、努力を認め、給料水準に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があった際には、希望を募り参加するようにしている。また、必要な研修に参加出来るように業務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はグループホームサービス向上委員会等へ参加し、今後のレベルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に施設を見学して頂き、環境や雰囲気、確認していただく。本人にお会いし、不安や要望を聞き安心してサービスを、導入できるようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や困っている事をよく聞き取りサービスの提供に役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのサービスが適切か、他のサービスが適切かを見極め随時十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な立場に置くことなく出来る事は、手伝って頂き、昔話をしたり、人生の先輩として尊敬しながら色々な事を教えて頂きながら寄り添い支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日々の様子をお伝えし、情報を共有し、一緒にケアについて考え話し合い支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出、面会が出来ずにいたが、今は外出した面会が出来るようになり、実際に出掛けている。	生活歴等を掴みながら、個々の馴染みの人や場所の把握に努めてきた。以前は友人の面会もあったが関係が途絶えてしまい、思い出話をしたり、懐かしんだりしている。徐々に面会や外出が増えてきたので、今後、関係の継続支援に努めていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、楽しい日々が過ごせるよう席順なども配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人、家族様の必要に応じいつでも相談にのれるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日頃の言動や様子から思いを受け止める支援に努めている。家族からの情報も支援に生かしている。	普段からコミュニケーションを大切にして、役割を持ちたい・家に帰りたい・健康でいたい等の利用者の希望に、できる限り叶えられるようケアに努めている。また、本人の状況を家族に説明しながら情報を聴取して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間で情報を把握し、ケアプランに連動させ支援している。入居の際にご家族の協力を得て情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の心身状態、有する能力の現状を把握し、職員全員で共有しその人にあった支援が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	勉強会や日頃の業務を通じ職員から意見を聞き、ケアマネージャーは毎月モニタリングを行っている。	全職員が把握できるように職員会議や介護記録により、情報共有に努めている。利用者の様子を観察し、コミュニケーションを深め、本人のニーズを把握して家族と話し合い、ケアプラン作成につなげている。毎月モニタリングを行い、ケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で情報を共有出来るよう日々の様子や、ケアの実践、結果等を記録し日々の支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを伺い出来るだけ柔軟なサービス、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	より豊かで楽しみのある生活が送れるよう地域に支えられながら生活を送っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医の受診は、入居時に説明し選択してもらっている。途中の変更も対応している訪問看護が週1回訪問し、24時間のサポート体制もある。	入居時に、かかりつけ医を本人と家族で選択し、継続的に受診できるよう支援している。週1回、訪問看護を導入し、事業所の看護師と訪問看護師、かかりつけ医が連携し、できる限り入院しない・すぐに退院できるようにして、対応可能な治療やリハビリを事業所で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しており定期的な訪問と必要に応じて看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連携を図りつつ早期に退院出来るよう、利用者様と家族の希望を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、終末期に向けた方針について話し合いを行い重度化した利用者に対しては、早い段階からご家族、主治医、職員とで終末期のあり方について相談していき、主治医、訪問看護と連携を取りながら、チームで支援するよう努めている。	重度化や終末期に関しては、早い段階から医師、本人、家族、職員で話し合いを重ね、家族の思いを大切に、後悔が残らない選択を支援している。終末期に対応する夜勤職員の精神面に配慮し、常にセンター長と連絡が取れ協力が得られる体制で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や事故発生の応急手当等は、勉強会を行っている。AeDや救急車の呼び方なども学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消防隊員にも参加して頂いている。コロナ禍のため地域の方々の参加は無しです。	年2回の避難訓練は、消防署の指導の下に法人で行い、通報、消火、スプリンクラーの点検を行っている。自然災害には、敷地が広い敷地内を避難場所に定めており、日常的に備蓄品を備えている。地域の協力体制の確保には至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ誘導には、さり気ない声掛けを心掛けている。業務内で気になった事は職員同士で話し合っている。	職員会議や申し送り時に、人格の尊重やプライバシーの配慮について職員間で話し合い、必要に応じて施設長や管理者が指導している。特に入浴や排泄、更衣時には、配慮した声掛けを心掛けている。また、自由な生活を支援する等、画一化しないケアを提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で本人の思いや希望をくみ取り職員間で話し合いながら、実現出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、希望を聞きながら、その人らしい生活を送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師が来所し、ヘアカットを行っている。着換えの際は、一人一人希望を聞き服を選んでいただいたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の冷蔵庫の在庫を見て、利用者様と献立を考えたり、野菜の下ごしらえに参加して頂き、食事を楽しんで頂けるよう支援している。	食事は、楽しみ事の一つと捉えている。家庭と同様に、今ある食材で美味しい食卓となるように利用者と一緒に考え、家庭菜園で採れたての野菜を利用者が切り、職員が調理している。おやつも、できる限り手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じた食事量、形態を、利用者様や家族、主治医と相談しながら決めている。水分摂取が少ない方は、量のチェックをし声掛け対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の主治医から指導を受けながら、一人一人にあった口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに、本人の排泄パターンを把握し、一人一人に合わせた排泄支援している。可能な限りトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。必要に応じケアプランで把握し、実施している。	トイレでの排泄は人としての尊厳であるという職員の意見に、全職員が共通理解を持ち、排泄チェック表の活用、時間誘導、頻繁な声掛けを行っている。また、朝の排便習慣として、全利用者を決まった時間に一定時間、便座に誘導して、排泄につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すために、水分補給を強化している。また、必要に応じて主治医と本人に相談し運動や食事でも自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っている。入浴剤や、季節の湯で香りを楽しんだり職員とゆっくりおしゃべりしながら楽しんで頂ける支援している。歌の好きな利用者様が多いので脱衣所で一緒に歌い楽しい一時を過ごしている。	週3回の入浴とし、その日に気が進まない場合には別の日に支援している。入浴はコミュニケーションの場という考えの下に、その人に合わせて会話をしたり、歌を唄ったり、楽しく入浴できるようにしている。季節に合わせて入浴剤を利用して、香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や生活習慣にあわせお昼寝や就寝時間を決めている。夜間気持ちよく眠れるように、日中体操や、レクリエーションを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人が内服している薬について理解し、薬の変更などがあった時は症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった役割分担を決め、生きがいのある日々を過ごして頂けるよう支援している。ご家族が嗜好品を持ってきて下さる方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩をし、四季折々の花を楽しんで頂いたり、中庭で外気浴をしている。ご家族と外食へ出掛ける方もいる。	環境を活かし、週に3回は散歩に出掛けられるように計画している。その他、広い中庭を利用して、お茶を飲んだり、外気浴を楽しんだりしている。コロナ禍で外出制限してきたが、日常生活動作の低下に努めてきた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望を尊重しながらお金の所持や使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や年賀状のやり取りがある。ご家族様から季節の手紙が届く。希望時、家族への電話もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの天井は高く、外の景色が見やすくなっている。段差がなく中庭へ自由に行けるので、花を摘んでホールに飾ったりして季節を感じて頂いている。	天井が高く十分に採光を取り入れ、窓も大きく、リビングから季節の花々が咲く庭を観ることができる。中庭とホールは、自由に行き来することができる。空調設備が整い、自由な時間を過ごせるように配慮し、ソファを設置したスペースもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼ホールには、自席とは別にソファがあり、中庭にも、ベンチを置き、気の合った利用者同士で思い思いに楽しく過ごせるように工夫してある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者、家族、職員でその人らしい居室作りを行っている。使い慣れた家具を使用している。また、居室ごとに壁紙やカーテンの様を変えている。	本人にとって大切な品を家族に持って来てもらい、居室づくりを本人と職員が一緒に行っている。鏡台や仏壇、テレビなどを持参し、家族の写真や塗り絵、習字の作品を貼り、一人で落ち着いて過ごせる空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、手すりを設置し、自力歩行出来るようにしている。廊下やトイレは、車椅子の方も自走出来るようにつったりしたスペースを確保している。		